

残す？残さない？…… 古民家改修



外観



床下



屋根裏



内壁

5月からスタートした古民家の改修工事が何とか完成に近づいてきた。

某大手メーカーの“〇〇そっくりさん”とは異なり、限られた予算の中で可能な限り竣工時の意匠を残して不具合箇所を改善したい思いの改修計画。

和瓦葺き屋根は雨漏りの為に既に改修済みで今回は対象外。外壁回りはシロアリ被害部材の調査を兼ねて傷んだ板壁の部分取替を行う。結果として柱の根継ぎを実施。伝統工法の板壁は簡単に取替が出来る先人の知恵ある優れた工法だと思う。

床下地組は予想通り、束が殆ど無い丸太根太組で、おまけに中庭のレベルが高く、排水処理が出来ずに雨の度に床下に流れ込んでいる状況。屋根裏は過去の雨漏り用の桶が放置されたままで、天井板の上部は農家に見掛ける土や藁等断熱出来るものは無く、ホコリが一面被さっており釣木が数えるくらいだが、不思議と天井は落ちない(笑)状況だ。木舞壁下地砂壁仕上げの内壁は以前貸家の使用時にビニルクロスが押しピンで上張りされ他状況で、竣工時の状況に復元するには、上塗り仕上げ部をケレンで取り除き新たに仕上げ塗りをを行う等、それなりの左官補修工事が必要となった。



杉板を捲って不良部材取替と薬剤散布



束・敷石増設+下地組補強と断熱材、



野地板下全面に吹付け断熱



上塗りケレン、傷、凹凸処理



洗面所

内部改修の主目的は、和室周りの床補強改修と熱環境対策（断熱性能）の向上、水回り機器の取り替え・・・そして仕上げ改装と極々普通のリフォーム工事と同じ要望だが、ちょっと違うのは、“愛着ある古民家”を大事に活用すること。一時は解体も考えられた様だが、周辺で進んでいるハウスメーカー企画商品による“地域性に無い街並みへの疑問に一石投じることが出来ればとのオーナーならびに設計者の思いでもある。

……か、と言っても“内・外、そこそこの規模がある改修”であり、請け負って頂けた工務店社長の協力を足しても、それなりの妥協は必要だったと思う。

その他……中庭からの床下への雨水浸水対策は、高い土をすき取り、既設排水溝に切り込みを新たに入れて雨水が注ぎ込む様にし、表面には碎石を一面に敷き詰めた。捨て置かれていた蹲踞を立て、元から植わっていたアジサイを一枝残した庭に作り変えた。

和室二間の意匠は全く依然と変わっていない。唯一、二間の間にあった敷居を取り除いて畳を敷き詰め一間として利用することにした。竹レールを使った硝子障子を残して、外側に建具を増設。二重にして断熱性を高めている。以前は床柱付近で床が一寸強下がっていたが今回の改修で水平に戻している。



洗面台改修



流し台改修



流し台



中 庭



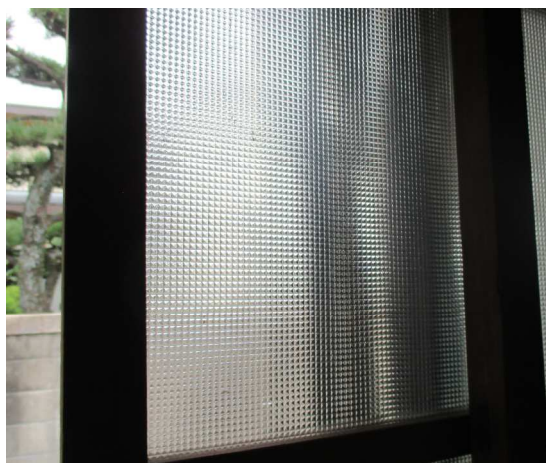
中庭 改修



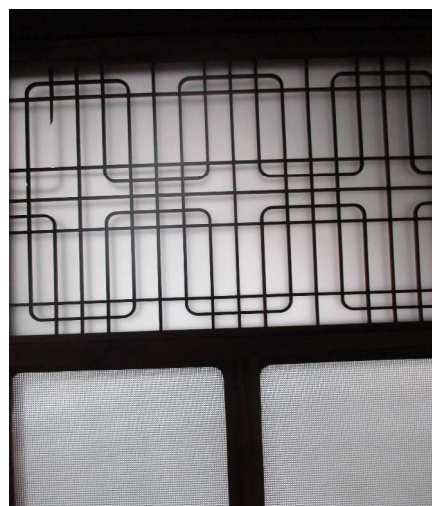
和 室



和室 改修



窓硝子



硝子障子



蹲踞

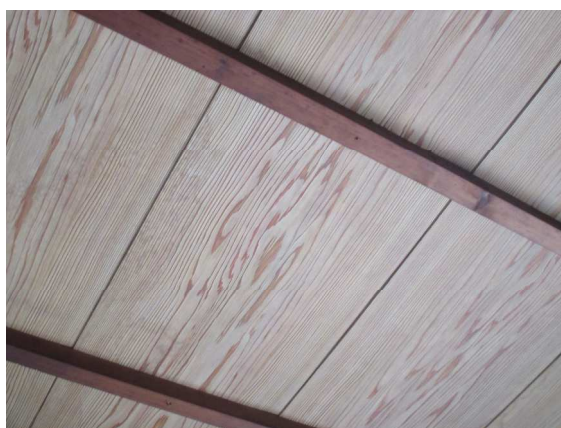


欄間

捨てずに残したい“もの”

古民家の改修を多く手掛けていると、それ以降に建てられた民家や工場製品ばかりで造られた住宅では使われていない“代物”に出くわす事が楽しみである。文化財級の建物ではないにしろ、いまの時代ではなかなか手に入りにくいもの珍しいものにお目に掛かる。古民家に携われることのひとつの楽しみである。今回も捨てずに残して再利用したい“代物”を幾つか見つけた。

窓硝子のガラスは今特殊デザインガラスとして商品は有るが、そのまま竹レールと共に再利用。硝子障子の組子も幾つか傷んでいるがそのうちに旧知の指物師に修理依頼が出来ればとの思い。欄間は洗っただけ。主の和室の天井は痛みがひどく、板は普通だが他和室のみ工法が少なくなっているで残した。蹲踞はそのままだと水が溜まってボウフラが湧かない様に穴を開けて中庭の修景に一役………(笑)



いなご天井



竹製敷居レール